

令和6年度事業報告

県内在住外国人が増加する中、日本人と外国人との相互理解、多文化共生の推進について、多様な主体と連携を図りながら各種事業に取り組みました。特に重点事業として位置付けた地域日本語教育の体制づくりでは、日本語教師が日本語初学者の外国人に日本語を学ぶ機会を提供し、外国人相談体制の充実においては、出張相談を県内5か所に拡充して実施しました。また、留学生等を県内の学校や生涯学習関係機関等に派遣、交流することにより県民の国際理解を深めるとともに、新規のIBARAKIネイティブコミュニケーションサポーター事業では、外国人生活環境推進員をコーディネーターとして配置し、サポーター（本県に中長期間在留し日本語と母語によるコミュニケーションが可能な海外出身者）の活動支援を行い、意見交換会等を開催しました。さらに、コロナ禍が収束し、中国の入国制限等が緩和されたことから、県内大学生の参加を募り、5年ぶりに海外上海研修を実施しグローバル感覚の醸成を支援しました。

1 共に目指す多文化共生社会づくり

(1) 外国人が安心して生活できる環境の整備

① コミュニケーション支援

外国人が生活していく上で県民としての様々な情報が得られるよう、多言語によるホームページ、フェイスブックや外国人支援図書など多様な媒体により情報提供を行いました。

- ・対応言語：日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、シンハラ語（11言語）

◇多言語でのホームページ、フェイスブックなどにより情報を提供しました。

- ・情報発信件数（多言語） 225件
- ・ホームページアクセス数（日本語及び多言語） 174,311件

◇地域日本語教育の普及【重点】

新しい茨城 地域のための日本語サポートセミナー事業により、当協会登録日本語教育インストラクターが、ビギナーコース（これから支援を始める人向け）、アクティブコース（既に活動中の人向け）を開催しました。

ア 日本語教育インストラクター 登録者数 22名

イ 新しい茨城 地域のための日本語サポートセミナー

<ビギナーコース>

対 象：これから日本語サポートを始める人（未経験者等）

内 容：相互理解、多文化共生の地域づくりを目指す日本語支援について

開 催：6～9月、全5回（各回2時間）、県内4つの地域ごとにオンライン開催。

参加者：263名（のべ）

<アクティブコース>

対 象：ビギナーコース修了者及び既に日本語を教えている日本語サポーター

内 容：毎日の支援活動がちょっとよくなるtips ほか

開 催：11～2月、計6講座（インストラクター6名）、各講座全3回構成（各回2時間）。

参加者：123名（のべ）

◇地域日本語教育の体制づくり事業（受託）

多文化共生社会の推進、外国人に選ばれる県づくりのため、県内どこにいても日本語学習の機会が得られる環境を構築しました。

ア 地域日本語教育推進員の設置

事業を効果的に進めるため、日本語教師有資格者で地域実践活動等の経験がある人材が地域日本語教育推進員として業務に従事しました。（2名、各週3日勤務）

イ 関係者連絡会議の開催【拡充】

市町村職員、日本語支援者等のほか新たに日本語教師、企業も対象として事業の理解・普及を促進しました。

タイトル：多文化共生の実現に向けて みんなで創る日本語支援みらいシンポジウム

内 容：シンポジウム（パネリスト：企業、外国人、支援者、行政）及びパネリストを

囲んだグループディスカッション

開催場所：対象地域ごとに開催

県北・県央、県央・鹿行：ザ・ヒロサワ・シティ会館分館

県南：牛久市中央生涯学習センター、県西：八千代町中央公民館

開催日：県北・県央 8/1 (木)、県央・鹿行 8/29 (木)、県南 9/20 (金)、県西 10/11 (金)

対象：市町村職員、日本語支援者、ほか

参加：合計 97 名

内訳：県北・県央 19 名、県央・鹿行 21 名、県南 29 名、県西 28 名

ウ 日本語支援者のフォローアップ講座の開催

令和 2 年度より開催してきた支援者養成講座「新しい茨城 地域のための日本語支援を考える会」、今年度新規開催の「新しい茨城 地域のための日本語サポートセミナー」受講者を対象に、フォローアップ研修をオンラインにより開催しました。

開催日時：第 1 回 11/18 (月)、第 2 回 11/25 (月)、第 3 回 12/6 (金) 各回 19:30~21:00

(第 3 回参加者は実際の活動に参加したことがない人が対象)

内容：ワークショップ、講演会、外国人との対話経験

参加：のべ人数 53 名 (内訳：第 1 回 25 名、第 2 回 24 名、第 3 回 4 名)

エ 地域日本語教育人材の養成研修【新規】

日本語教師を対象に、地域日本語教育コーディネーターや基礎日本語教育の講師として今後地域日本語教育に関わる人材を養成しました。

内容：外国人の概況、コミュニティ・デザインによる地域日本語教育、課題探究、など

開催：10~12 月、全 8 回 (各回 2 時間 (一部 1 時間 30 分)) オンライン開催

講師：日本語教育の有識者等

参加：県内の日本語教師 6 名

オ 基礎日本語教育モデルコース【拡充】

県内在住外国人を対象に、日本語教師が日本語を教えることで、国籍を問わず県民が安心・安全に生活するための日本語コミュニケーションを支援しました。(オンライン開催)

<ファーストステップコース>

対象：16 歳以上で日本語非母語話者。日本語教育未経験で日本語がわからない方。

開催日：8/20 (火)、8/23 (金)、8/27 (火)、8/30 (金)、9/3 (火)、9/6 (金)、9/10 (火)、9/13 (金) 9/17 (火)、9/20 (金)、9/24 (火)、9/27 (金)、10/1 (火)

時間：19:00~21:00

参加者：11 名 (国籍：中国、インド、バングラデシュ、フィリピン、カンボジア、アメリカ、ネパール)

<セカンドステップコース>

対象：県内在住で日本語を母語としない 16 歳以上の外国籍の人。過去に日本語教育未経験でひらがな・カタカナが理解できる人。

開催日：10/22 (火)、10/25 (金)、10/29 (火)、11/1 (金)、11/5 (火)、11/8 (金)、11/12 (火)、11/15 (金)、11/19 (火)、11/22 (金)、11/26 (火)、11/29 (金)、12/3 (火)

時間：19:00~21:00

参加者：10 名 (国籍：フィリピン、インド、バングラデシュ、ナイジェリア、カメルーン、アメリカ、パキスタン)

カ 地域日本語教育コーディネーターの育成及び人材の派遣

地域日本語教育関係者連絡会議におけるワークショップ・ファシリテーターや、ボランティア日本語教室での活動実践等を通して、体制づくり事業の普及や情報収集等を行いました。

・今年度の地域日本語教育コーディネーター委嘱者 7 名

・連絡会議でのファシリテーション (前項イに記載の場で活動)

・地域日本語教育コーディネーター課題活動 (地域日本語教育の推進に資する取組) 7 件

また、市町村、日本語ボランティア教室等からの要請に基づき、日本語教室立ち上げ支援等の目的に対し地域日本語教育推進員・地域日本語教育コーディネーターを派遣しました。

<地域日本語教育推進員・地域日本語教育コーディネーターの派遣>

区 分		派遣回数	派遣人数 (のべ)
派遣先	市町村	5回	7名
	日本語ボランティア教室	2回	2名
	合 計	7回	9名

<地域日本語教育推進員・地域日本語教育コーディネーター会合の開催>

円滑な事業推進にかかる情報共有・意見交換の場をオンラインにより定期開催しました。
開催日：7/18 (木)、8/26 (月)、9/24 (火)、10/23 (水)、11/21 (木)、12/20 (金)、1/20 (月)、
1/28 (火)、2/12 (水)、各回1時間半

② 外国人相談体制の充実【拡充】

在県外国人が生活する上での疑問や問題を解決するため、弁護士会などの協力のもと、法律、労働、教育、婚姻など生活全般について年間を通じ相談事業を行いました。

・対応言語 日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語、スペイン語、
韓国語、インドネシア語、ベトナム語、シンハラ語 他

・相談件数 976件

<相談件数内訳>

項 目	件 数	割 合
出入国管理・在留カード	167件	17.1%
労働関係・雇用・労災	79件	8.1%
起業・会社設立・貿易	6件	0.6%
結婚・離婚、夫婦、親子、家族	102件	10.5%
国籍・帰化	16件	1.6%
留学・研修	5件	0.5%
医療関係	18件	1.9%
社会保障・年金・保険	41件	4.2%
税金	10件	1.0%
教育、文化	48件	4.9%
住居・くらし、交通・免許	181件	18.6%
言語・翻訳・通訳	235件	24.1%
案内・問い合わせ	58件	5.9%
その他	10件	1.0%
合 計	976件	100.0%

◇無料弁護士相談の実施

毎月2回、高度な法律の相談について、弁護士相談を実施しました。

相談形式：対面方式またはオンライン (Skype、LINE、Messenger)

・実施場所：水戸市 (茨城県国際交流協会 研修室)

・対応弁護士：2名

・相談回数：24回

・相談件数：44件

◇地域別休日無料専門家相談の実施【拡充】

外国人が集住する県南・県西地域を中心に新たな地域を加え、弁護士、行政書士、社会保険労

務士等専門家による、多言語による休日無料出張専門家相談を実施しました。

場所：土浦市、筑西市、鹿嶋市、つくば市、古河市

<土浦>

- ・実施日：令和6年6月30日（日）
- ・実施場所：土浦市役所
- ・相談結果：25グループ（13カ国） 34件 8言語で対応
- ・相談対応者：弁護士、行政書士、社会保険労務士、外国人材支援センター

<筑西>

- ・実施日：令和6年9月8日（日）
- ・実施場所：筑西市立中央図書館
- ・相談結果：11グループ（7カ国） 13件 9言語で対応
- ・相談対応者：弁護士、東京入管職員

<鹿嶋>

- ・実施日：令和6年10月20日（日）
- ・実施場所：鹿嶋市立中央公民館
- ・相談結果：3グループ（2カ国） 4件 2言語で対応
- ・相談対応者：弁護士、行政書士

<つくば>

- ・実施日：令和6年11月10日（日）
- ・実施場所：つくば市役所
- ・相談結果：29グループ（17カ国1地域） 40件 10言語で対応
- ・相談対応者：弁護士、東京入管職員、行政書士、社労士、外国人材支援センター、つくば市役所職員

<古河>

- ・実施日：令和7年1月26日（日）
- ・実施場所：古河市中央公民館
- ・相談結果：15グループ（9カ国1地域） 24件 9言語で対応
- ・相談対応者：弁護士、東京入管職員、社労士、外国人材支援センター、古河市役所職員、協会相談員

◇相談員研修の実施

- ・専門的知見を蓄積することや相談対応についての検証等を目的に研修を実施しました。
- ・相談センター主催研修の実施 11回（外部講師による講義3回、ビデオ視聴5回）
外部講師：茨城県外国人材支援センター、日本年金機構、県医療政策課
ビデオ視聴：法テラスセミナー「支援に役立つ在留資格の基礎知識」、
「住まいのトラブル」、「国際結婚の法律問題」、「労働問題の基礎」
「外国人支援での法テラスの使い方」

◇外国籍家庭向け日本の教育ガイダンス

JICA、海外支援NGO、国内関係組織が連携・協力し、県内の外国ルーツの子どもたちを取り巻く社会課題解決を通じた共創の試みに参加しました。

<IBARAKI LINK (Network for the Future of Children with Foreign Roots) の立ち上げ>

構成組織：認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ、独立行政法人国際協力機構（JICA）（本部、筑波センター）、特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、特定非営利活動法人国際活動市民中心（CINGA）、八千代町地域おこし協力隊（多文化共生）、当協会）

<教育ガイダンスの開催>

- ・実施日：令和7年1月12日（日）13:30～16:30

- ・実施場所：八千代町立中央図書館 集会ホール
- ・内 容：県西地域の外国籍家庭における不就学児童・生徒への就学支援を目的とし、日本における教育制度、入学準備、入試、奨学金等の情報提供と、母語で個別に相談できる機会を設けました。(第1部：全体説明、第2部：個別相談)
- ・備 考：通訳支援者として20名13言語を配置
- ・結 果：計8か国から12家族36名が参加(国籍：スリランカ、パキスタン、ペルー他)

③ I BARAKI ネイティブコミュニケーションサポーター事業の運営(県から受託)【新規】

日本語と母語によるコミュニケーションが可能で、県内で中長期間生活してきた外国人を、県が「IBARAKI ネイティブコミュニケーションサポーター」として認定しました。買い物や病院の付添いなど日常生活の支援や、県からのお知らせなどについて外国人コミュニティー等への情報提供、住みやすい茨城について外国人の視点での提言等のサポーター活動について支援を行いました。

◇サポーター数 70名

◇外国人生活環境推進員の配置(1名)

◇毎月、サポーターの活動実績をとりまとめ、県へ報告

◇在住外国人に有益となる公的機関等からの情報の収集・発信

県と連携しながらサポーター経由で在住外国人に向けて情報提供しました。(2~4回/月)

◇サポーターとの意見交換会等の開催実務(諸準備・連絡調整、会場設営、司会進行等)

ア 第1回意見交換会の実施

- ・実施日：令和6年5月29日(水)
- ・実施場所：ザ・ヒロサワ・シティ会館分館 集会室10号
- ・参加人数：13人
- ・成 果：意見提案の中から「医療機関における多言語遠隔通訳サービスの提供」が県の施策として反映された。

イ 第2回認定式及び交流会の実施

- ・実施日：令和6年11月6日(水)
- ・実施場所：茨城県庁 庁議室ほか
- ・参加人数：第2回認定式 13名
(新規INCサポーター認定者数は18名 うち認定式出席13名)
交流会 19名

ウ 茨城県知事表敬

- ・実施日：令和6年11月29日(金)
- ・実施場所：茨城県庁
- ・参加人数：7名

エ 第3回認定式及び交流会 実施

- ・実施予定日：令和7年3月25日(火)
- ・実施場所：茨城県庁
- ・参加人数：第3回認定式 15名
(INCサポーター追加認定者数22名 うち認定式出席15名)
交流会 36名

◇新規サポーター発掘(県職員同行)

サポーター数：40名増により計70名

④ 多文化共生のためのサポーターバンクの運営

多文化共生の地域づくりを推進するため、語学ボランティアや日々の生活へのアドバイスをしてくれる人材を発掘登録することで外国人の支援者拡大を図りました。

◇サポーターバンクの登録推進

外国人支援のための「語学サポーター」、「災害時語学サポーター」、「医療通訳サポーター」、

「外国人のための地域生活アドバイザー」や相互理解を進めるための「各国事情紹介講師」、
「ホームステイ・ホストファミリー」等の人材登録を推進し、活用を図りました。

<登録活動状況>

区 分	登録状況	活動状況
語学サポーター	33 言語 347 名	9 件 69 名
医療通訳サポーター	20 言語 133 名	2 件 6 名
災害時語学サポーター	21 言語 185 名	0 件 0 名
外国人のための地域生活アドバイザー	50 名	20 件 20 名
各国事情紹介講師	285 名	32 件 42 名
ホームステイ・ホストファミリー	96 名	1 件 9 家庭
合 計	延べ 1,096 名	64 件 137 名 9 家庭

⑤ 災害時・緊急時の在住外国人支援体制の充実・強化

災害時・緊急時において、言葉や文化の違いにより避難に支援が必要な外国人へ適切な支援を行うため、災害時外国人支援研修等への参加及び災害時の広域連携体制の強化を図りました。

◇災害時外国人支援研修（全国・県域）

ア 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業

- ・主 催 者：（一財）自治体国際化協会
- ・実 施 日：令和6年8月19日（月）13：00～16：30
- ・場 所：東京体育館 第一会議室
- ・内 容：①令和6年能登半島地震における対応・支援体制について
②グループディスカッション（「防災・減災のための多言語支援の手引き」の活用）

イ 令和6年度災害時外国人支援研修（入門研修、実践研修）

- ・主 催 者：茨城県
- ・実 施 日：令和6年11月6日（水）10：00～12：00（入門研修）
令和6年11月22日（金）10：00～16：00（実践研修）
- ・場 所：水海道総合体育館（常総市）
- ・内 容：多言語支援センター設置運営訓練、避難所巡回訓練等

◇広域連携による災害時の支援体制の整備

関東地域国際化協会連絡協議会と連携し、災害時の多言語情報翻訳シミュレーション訓練等を実施しました。

- ・実 施 日：令和6年11月28日（木）10：00～16：00
- ・場 所：各協会（メール対応）

（2）外国人による地域活動の推進

① 在住外国人や留学生の地域活動への参画拡大

3（2）①、2（1）①、1（1）④ 参照

2 グローバル交流・協力の推進

（1）国際活動情報の提供

① 機関誌やホームページ等を活用した情報提供

県民のグローバル交流を活性化するために、海外の情報や、国際機関、県、各種団体等の国際交流情報を集積・提供しました。

◇機関誌「ふれあい茨城」の発行

協会や民間国際交流・協力団体の活動や、国際理解を推進するための情報を紹介する機関誌を発行しました。

- ・発行時期：年2回（9月、3月）
- ・発行部数：各4,000部

◇ホームページによる情報提供

当協会の事業、及び県内の国際交流活動団体の情報を収集・発信するとともに、随時県内外の国際活動関連の記事やイベント情報等を発信しました。

◇国際ナショナルライブラリーの運営

国際交流、国際理解、日本語教育、国際協力等、国際活動に関わる雑誌、図書等を収集及び貸出をしました。

（2）国際交流・協力の推進

① 県民の国際交流活動の推進

県、市町村、市町村国際交流推進組織、民間国際交流協力団体等との連携により、県民の国際交流活動への参加を促し、活動の充実を図りました。また、外国人が住みやすい環境を整備するために、関連機関と連携し地域住民と外国人との交流を推進しました。

◇国際交流・協力ネットワーク会議の開催

民間国際交流・協力団体や市町村の国際交流担当者等を対象に活動の情報交換及び研修を実施しました。

- ・開催日：令和6年7月18日（木）
- ・場所：ザ・ヒロサワ・シティ会館分館 集会室1号・2号・8号・9号
- ・対象：市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体、日本語ボランティア教室等
- ・参加者：130名
- ・内容：1)基調講演

「共生社会の実現には何が必要か ～在日外国人が直面する言葉・心・法の壁～」

講師：武蔵大学社会学部 教授 アンジェロ・イシ氏

2)分科会

第1分科会：多文化共生ネットワーク会議

「より良い地域をつくるために、海外ルーツの人と語ろう ～皆さんの活動が深まることを目的として、県（行政）の外国人との共生に向けた方針や、県内に住む海外ルーツの方々の声を聴こう～」

ゲストスピーカー：海外にルーツを持つ県内在住者7名

進行：当協会 外国人生活環境推進員 大津 尚子

第2分科会：グローバル交流ネットワーク会議

「SDGsから地域と世界を考えよう ～持続可能な開発目標（SDGs）地域と世界の関わり、課題解決にむけて～」

進行：国際協力機構筑波センター（JICA 筑波）連携推進課 波多野 誠 氏、
岡崎 有香 氏

JICA 茨城デスク 新井 江梨子 氏

第3分科会：日本語ボランティアネットワーク会議

「みんなに寄り添う、わかりやすい日本語表現 ～外国人住民の窓口対応を「やさしい日本語」の視点から～」

進行：当協会 地域日本語教育推進員 仙波 美哉子 氏、羽鳥 愛 氏

◇市町村国際交流推進組織 意見交換会

県内市町村国際交流推進組織の組織運営、事業企画を担当する会員等が、対面で意見交換等を行う機会を設けました。組織活性化、事業の企画立案、組織間のつながりづくりを支援しました。

（CLAIR 地域国際化推進アドバイザー派遣制度活用）

- ・開催日：令和6年11月20日（水）

- ・場 所：ザ・ヒロサワ・シティ会館分館 集会室 10 号
- ・対 象：市町村担当者、市町村国際交流協会会員
- ・参 加 者：34 名（講師、スタッフを含む）
- ・内 容：1) 講演「外国人と共生する地域づくり」

講師：一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) 地域国際化推進アドバイザー

公益財団法人とよなか国際交流協会 常務理事兼事務局長 山野上 隆史氏

2) グループディスカッション

ファシリテーター：山野上 氏

テーマ

- ① 国際交流協会等の組織の維持及び発展
- ② 海外諸都市との交流(ホストファミリーの確保)
- ③ 外国人とのつながり作り&情報提供
- ④ 日本語教室
- ⑤ 外国ルーツの子ども

◇茨城県国際交流協会事業ボランティアの登録・活用

協会が主催する各種事業（外国人による日本語スピーチコンテスト等）に協力を得られるボランティアの登録を促進し、協会事業の円滑な運営を図りました。

・登録者数：33 名

②国際協力活動の推進

（独）国際協力機構筑波センター（JICA 筑波）や茨城県高等学校国際教育研究協議会と連携し、途上国支援等国际協力に関する事業を行いました。

◇JICA 海外協力隊等、国際協力への参加促進

◇義援金の募集 実績なし

(3) 経済交流への支援

① 企業の海外展開等への協力

留学生が県内定住を検討できるよう県内企業を知る機会等を提供しました。

◇留学生と県内企業のマッチング支援等

留学生が本県の魅力について理解を深め、本県の情報を対外的に発信できるよう、県内の企業・文化施設等を訪問する研修を実施しました。

・クエスト茨城留学生研修：令和 6 年 7 月 6 日（土）、11 月 23 日（土）

県や県内大学、経済団体等からなる「茨城県留学生就職促進コンソーシアム」に構成メンバーとして参画しました。

・コンソーシアム設立総会：令和 6 年 8 月 23 日（金）

② 観光分野等の語学協力

クルーズ船寄港時やアジアの LCC が茨城空港就航時に外国語でおもてなし対応を行う人材確保のため、当協会に登録する語学サポーターへの啓発及び協力者募集等を行いました。

3 グローバル社会へ向けた人づくり

(1) 国際理解を推進するための事業実施体制の整備

① 県や関係機関との横断的連携体制の整備

国際理解を推進するために県や関係機関との横断的連携体制をとるとともに、留学生や在住外国人及びファシリテーター等国際理解をすすめる人材の発掘・育成を図りました。また、教材収集など事業実施体制を整備しました。

◇茨城県国際理解教育推進協議会の設置

当協会、県、県教育委員会、JICA 筑波、大学留学生協議会等関係 8 団体による協議会を設置

し、事業を効果的に行いました。

- ・幹事会：令和6年7月31日（水）
- ・総会：令和7年3月24日（月）

◇茨城県留学生親善大使の任命

県内の留学生を茨城県留学生親善大使に任命し、国際理解事業や国際交流事業に派遣することにより、県民の国際活動を推進しました。

- ・任命期間：令和6年6月から2年間
- ・対象：県内大学等に在籍する留学生
- ・令和6年度登録者：17カ国89名
- ・任命式：令和6年6月22日（土）
- ・ワールドキャラバン派遣者数：延べ120名

◇いばらき応援大使の任命

独立行政法人日本学生支援機構が設置・運営する東京国際交流館（東京都江東区）に入居する外国人留学生をいばらき応援大使として任命しました。茨城県留学生親善大使向けの事業に参加し、本県の魅力理解や県民との国際交流を行いました。

- ・任命期間：令和6年6月から令和7年3月まで
- ・対象：東京国際交流館に入居する外国人留学生等
- ・任命式 令和6年6月22日（土）
- ・令和6年度登録者 17名

◇世界の料理ミーティング

茨城県留学生親善大使等の有志が中心となり、「クオリテ Lab」（茨城県農業協同組合中央会）において、県産食材を活用した母国料理等を手作りした様子を動画撮影し、JAグループ茨城公式チャンネルで公開しました。（茨城県農業協同組合中央会との連携事業）

（第1回）

- ・実施日：令和6年8月31日（土）
- ・内容：インドネシア料理（ガドガド、ナシゴレン、チレンほか）
- ・参加：茨城県留学生親善大使6名（国籍：インドネシア）

（第2回）

- ・実施日：令和7年1月18日（土）
- ・協力：JICA 筑波（アフリカの食糧事情改善のために開発されたネリカ米の提供）
- ・内容：コメの食べ比べ等（県産米、ネリカ米など。アフリカ・アンゴラの伝統料理チキンムアンバの調理・試食等）
- ・参加：茨城県留学生親善大使等留学生4名（国籍：中国、ウズベキスタン）

◇国際理解教材収集・貸出しの実施

県内の国際理解教育を実施するため、各国からの教材を収集し貸出しを行いました。

- ・対象：県内学校、国際理解教育を行う民間団体等
- ・教材数：106カ国892点
- ・収集内容：民族衣装、工芸品、図書等
- ・貸出実績：17回

（2）相互理解・国際理解の推進

① 県民の国際感覚醸成

互いの生活、文化、習慣の違いを認識し、外国人と地域住民が協力して多文化共生地域づくりをすすめられるよう県民の国際感覚を醸成し、相互理解・国際理解を促進します。事業の実施にあたっては留学生親善大使や県内に在住する外国人の活用を図りました。

◇ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業の実施

外国人講師及びファシリテーター等を学校や生涯学習の場に派遣し、異文化に触れたりワークショップを体験したりするなど、国際理解教育の機会を提供しました。オンラインによる遠隔交流の機会提供にも取り組みました。

- ・時 期：令和6年9月～令和7年2月
- ・場 所：県内学校、生涯学習関連団体活動場所等
- ・講 師：留学生、国際交流員、県内在住外国人、海外国際活動経験者及び当協会登録ファシリテーター等

<ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業派遣実績>

区 分		派遣回数	参加者数
派遣先	小 学 校	19回	1,243名
	中 学 校	3回	293名
	高等学校(含 中等教育学校)	13回	942名
	特別支援学校	9回	162名
	生涯学習関連施設等	22回	769名
	合 計	66回	3,409名
派遣講師数		120名	
派遣コーディネーター数		13名	

◇外国人による日本語スピーチコンテスト

在住外国人の日本社会への意見などを聞くことで県民との相互理解を図るとともに、外国人に日本語による意見発表の機会を提供することで日本語学習意欲を醸成しました。

- ・開 催 日：令和7年2月15日(土)
- ・場 所：ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール
- ・発 表 者：県内在住外国人15名
- ・本 審 査：知事賞、県議会議長賞、教育長賞、ひばり賞、特別賞(審査員7名により審査)
特別栄誉賞 日本語ボランティア賞、若人賞

◇世界文化セミナーの開設【対面・オンデマンド開催】

県内で活動する外国人を講師として迎え、文化・社会について話し合いをする英語によるセミナーを実施しました。対面コースは交流時間を30分拡大しました。受講者減少のためオンラインクラスを廃止する一方で、新たにオンデマンドコースを設け、受講者が都合のよい時間に、録画・編集された動画を視聴できるようにしました。

- ・時 期：春コース4月～7月(金曜対面コース各8回と交流会・オンデマンドコース各8回)
秋コース10月～2月(金曜対面コース各8回と交流会・オンデマンドコース各8回と交流会)
- ・対 象：県民(対面コース定員33名(春)→45名(秋)、オンデマンドコース定員無制限)
※春の対面コースは応募多数のため、落選者はオンデマンドコースに(7名)

春 期	令和6年4月12日(金)～7月19日(金) 全9回 (参加者：対面コース31名、オンデマンドコース16名)
秋 期	令和6年10月4日(金)～令和7年2月7日(金) 全9回 (参加者：対面コース34名、オンデマンドコース7名)

◇フランス語出前講座

パリ2024オリンピック・パラリンピック開催を機に、フランス出身の県国際交流員が講師として県内中等教育学校・高等学校に出向き、高校生が基礎的なフランス語と語学学習法を学ぶ機会を提供するとともに、フランスの文化・社会を紹介し、日本との比較を通して、異文化に関する意見交換を行いました。あわせて、茨城県の国際友好提携都市であるフランス・エソンヌ県との協定を

踏まえ、フランスの文化紹介を通して、海外に対する好奇心を育て、グローバル交流人材の育成を図りました。

- ・時 期：令和6年7月～令和7年3月
- ・場 所：県内中等教育学校及び高等学校の校舎
- ・対 象：県内高等学校及び中等教育学校（後期課程）の生徒
- ・参加校数：6校
- ・実施回数：12回
- ・参加生徒：192名

② 世界で活躍する人材の育成

特に若い世代の活動を支援し、将来世界で活躍する人材の育成を図るために、海外研修や、国際体験を促進するための事業を実施しました。

◇高校生のための地球市民講座の開催（共催事業）

茨城県高等学校国際教育研究協議会やJICA筑波と連携し、高校生を対象にワークショップ等を通して国際協力への理解を深めました。

- ・時 期：令和6年9月11日（水）
- ・場 所：JICA筑波
- ・対 象：県内高校生
- ・内 容：JICAボランティア体験談・施設見学・研修員との交流、ワークショップ等
- ・講 師：JICAボランティアOV、協会登録ファシリテーター
- ・参加者：59名

◇日本発/世界発 青年のメッセージ

茨城県高等学校国際教育研究協議会が実施する国際教育弁論大会にあわせて、当協会が留学生によるシンポジウムを主催することで、日本の若い世代へのメッセージを発信しました。

- ・開催日：令和6年12月12日（木）
- ・場 所：ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホール（水戸市）
- ・対象者：県内高校生及び県民
- ・内 容：
第1部 第61回国際教育弁論大会（発表者10名）
第2部 留学生シンポジウム
3か国からの留学生の日本語によるトークと日本の高校生と若者に向けたメッセージの発表
留学生3名：中国、スリランカ、ウクライナ
コーディネーター：ダフェル マシュー 先生（茨城県立鉾田第一高等学校）

◇インターンシップ等の受け入れ

日本人学生、外国人留学生等を対象に当協会においてインターンシップ研修を実施しました。

- ・受入人数：勝田中等教育学校 3名
- ・実 施 日：令和6年8月22日（木）
- ・内 容：国際交流に関わる仕事の体験、外国籍の方との対話体験等

◇海外研修の実施

大学生等を対象とし、将来世界で活躍する人材や地域で国際交流を推進する人材を育成するため、海外研修を実施しました。

- ・実施時期：令和7年3月4日～3月8日（4泊5日）
- ・参加者：茨城県内の大学生22名
- ・行き先：上海市、浙江省紹興市
- ・内容等：茨城空港利用、在上海日本国総領事館、JETRO 上海、常陽銀行上海駐在員事務所、現地企業（アポロパーク、GBI社）、現地大学生との交流、紹興市内散策 等

③ 外国人留学生の多様な社会体験機会の提供

外国人留学生の活動を支援することで、将来、地域社会に貢献し本県との懸け橋となる人材の育成を図りました。

◇留学生親善大使等による茨城県知事表敬訪問

留学生親善大使や県内で就職した留学生が茨城県庁にて大井川県知事表敬訪問を行い、茨城の印象や留学生親善大使としての地域での国際理解活動への抱負などを語りました。

- ・実施日：令和6年7月10日（木）
- ・場所：茨城県庁行政棟5階 知事応接室
- ・面会者：留学生親善大使5名（ベトナム、ウズベキスタン、インドネシア、ウクライナ、マレーシア）

県内で就職した留学生3名（ウクライナ、ベトナム、マダガスカル）

◇クエスト茨城留学生研修

県内で学ぶ留学生を対象として、茨城県に立地する企業、文化施設、史跡などを訪問し、茨城県についての理解を深めました。

〈第1回〉

- ・日時：令和6年7月6日（土）
- ・参加者：27名
- ・訪問先：酒列磯崎神社、日本赤十字社茨城県支部、水戸地方気象台

〈第2回〉

- ・日時：令和6年11月23日（土）
- ・参加者：25名
- ・訪問先：やさと菜苑株式会社（JA関連施設）、結城市（孝顕寺、つむぎの館、着付け処着楽）

◇茨城ふるさとファミリー事業

留学生や在県外国人が当協会登録のボランティアの家庭にホームステイをすることをきっかけに継続的交流をし、「茨城の家族」を作る場を提供しました。

- ・日時：令和6年9月28日（土）～29日（日）
- ・対象：留学生親善大使、いばらき応援大使、外国語指導助手等23名
- ・受入実績：19家庭

◇茨城県外国人材支援センターとの連携

県として外国人材の受入促進を図る中、外国人材支援センターとの定期的な情報交換の機会を設けました。

- ・実施日：4/1（火）、5/23（木）、6/19（水）、7/23（火）、8/20（火）、9/19（木）、10/17（木）、11/21（木）、12/20（金）、1/15（水）、2/13（木）、3/13（木）

◇在南米県人子弟次世代ビジネスリーダー招へい事業（受託）

在外県人会の子弟である次世代ビジネスリーダーとして招へいされた研修生を支援し、移住国における社会的・文化的・経済的地位の向上、日本語・日本文化の継承及び日本と移住国の文化・経済交流等の推進を図りました。

- ・受入期間：令和6年9月17日（火）～令和7年8月末日（予定）
- ・受入人数：2名

4 上海事務所運営事業

中国地方政府や現地企業との連携により、本県の産業振興に向けた中国企業の誘致に注力しています。

また春秋航空の「茨城ー上海」直行便が再開されたほか、観光関連の展示会やイベントもコロナ前のように開催されるようになっていきます。

（1）本県産業拡大への支援

① 対日投資や観光客誘致などの促進

本県への対日投資促進に向けたセミナーの開催や観光関連の展示会への出展により本県の観光物産や茨城空港のPRを実施しました。

◇第八回シルクロード国際博覧会

- ・開催日：令和6年9月20日（金）～24日（火）
- ・場所：西安国際会展中心（西安市）
- ・内容：茨城県の投資環境・観光資源及び伝統工芸品である笠間焼などのPRを実施

◇茨城県への対日投資セミナー

- ・開催日：令和6年10月15日（火）
- ・場所：上海ミレニアムホテル（上海市）
- ・内容：茨城県の立地優位性、優れた技術を有する県内企業との協業などのPRを実施
- ◇中国国際旅行交易会（CITM）
 - ・開催日：令和6年11月22日（金）～24日（日）
 - ・場所：国家会展中心（上海市）
 - ・内容：茨城県の立地優位性、優れた技術を有する県内企業との協業などのPRを実施
- ◇中日文化交流イベント
 - ・開催日：令和7年2月22日（土）
 - ・場所：凱美開元酒店（江西省南昌市）
 - ・内容：南昌市で日本語を学ぶ学生に向けて本県の観光PRを実施
- ◇上海ジャパンプランド
 - ・開催日：令和7年3月15日（土）～16日（日）
 - ・場所：ららぽーと上海（上海市）
 - ・内容：アウトドアや春の花を中心とした観光資源のPR

（2）企業のビジネス活動への支援

中国企業とのマッチングや中国の経済事情の調査等を実施し、県内企業の中国における販路開拓を支援しました。

① 精密加工技術フォーラム

- ・開催日：令和6年10月16日（水）及び17日（木）
- ・場所：上海国際貿易中心（上海市）、国際人力資源服務産業園（杭州市）
- ・内容：精密加工技術上の課題を有する製造業と技術力の高い県内企業とのマッチング交流会を実施

② 「茨城県産松 PR イベント」

- ・開催日：令和6年11月14日（木）
- ・場所：榊FLOWER KING 店舗（上海市）
- ・内容：茨城県産松のバイヤー向けの展示販売会の開催の支援を実施

（3）日中友好交流活動への支援

中国事情に関する情報提供を実施したほか、令和7年3月4日（火）から8日（土）にかけて来訪した本県大学生等の上海スタディツアーの実施支援を行いました。

（4）上海ネットワーク構築事業

① 上海茨城県人会運営協力

上海市等に在住している本県出身者のネットワークを新たに茨城のPR組織として位置付け、中国人との交流を図ることで、観光インバウンド促進や県産品の知名度向上、対日投資促進につなげています。

② 上海茨城留学生協議会運営協力

本県への留学経験者のネットワークを新たに茨城のPR組織として位置付け、上海茨城県人会と連携した活動を展開しています。

（5）情報収集・提供

中国人向けに、ソーシャルネットワーク「ウェイボー 微博」「ウィーチャット 微信」を活用した情報発信を実施しました。

- ・微博フォロワー数：109,491人、微信フォロワー数：11,617人（令和7年3月末現在）